



11月は、七五三の季節です。

七五三

の3択クイズに挑戦しましょう！

第1問

「七五三」が11月15日にお祝いされるようになったのは、いつごろからでしょうか？

- ① ^{かまくら}鎌倉時代
- ② ^{あづちももやま}安土桃山時代
- ③ ^{えど}江戸時代



第2問

七五三の3歳の祝いは「^{かみお}髪置き」という昔の^{つうかぎれい}通過儀礼が起源。3歳になると髪をどうするでしょう？

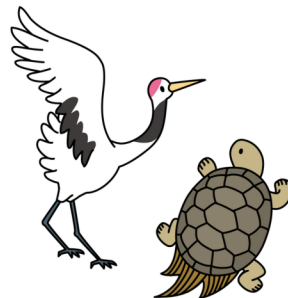
- ① ^そ髪を染める
- ② ^の髪を伸ばす
- ③ ^そ髪を剃る



第3問

^{ちとせあめ}千歳飴の袋によく描かれる鶴と亀。鶴は千年、亀は万年と言われますが、野生の鶴の^{じゅみょう}寿命は何年位でしょう？

- ① 20～30年
- ② 80～90年
- ③ 110～120年





七五三 クイズの答えと解説

第1問

答え：③ 江戸時代

平安時代から行われてきた「髪置き」「袴着」「帯解き」の3つの別々の儀式が、江戸時代に「七五三」として、まとめてお祝いされるようになったようです。それが11月15日になった理由は諸説ありますが、徳川綱吉の子、徳松の健康を祝う行事が行われた日だから、という説もあります。

第2問

答え：② 髪を伸ばす

平安時代、貴族の子供は男女とも三歳までは髪を剃って育てる風習があり、「髪置きの儀」を機に初めて伸ばし始めました。



この儀式では、「白髪になるまで長生きできるように」と、糸で作った白髪を子供の頭に載せて櫛で梳いたそうです。

第3問

答え：① 20～30年

「鶴は千年」と言われますが、野生のタンチョウなどの鶴は20～30年ほど生きとされています。飼育下では60年以上生きた記録もあります。千歳飴(ちとせあめ)は、その長寿にあやかり、子どもが末永く元気に育つようにと願いを込めて、鶴と亀の絵柄が描かれています。ちなみに、亀は、ゾウガメなど、100年以上(200年近くも)生きる種類もいるそうです！

